



学校だより

令和8年 10月29日(木)
江戸川区立一之江小学校
校長 平川 惣一
11月号

「水のような生き方」 黒田官兵衛から学ぶ

副校長 牧 久美子

2026年のNHK大河ドラマ『豊臣兄弟!』にも登場する黒田官兵衛。織田信長が勢力を広げ、羽柴秀吉が天下統一へと歩みを進める戦国の世において、時勢を見極め、交渉や策略を担った武将です。のちに「如水」と号し、知略に優れた軍師として知られていますが、その生き方からは、私たちが日々過ごすうえで大切にしたい教えも見えてきます。その教えとして広く知られているものに「水五訓」があります。水の性質になぞらえ、『自ら行動すること・学び続けること・困難を力に変えること・人を受け入れること・環境が変わっても自分の軸を失わないこと』の大切さを説いた教えです。なお、「水五訓」は黒田官兵衛の教えとして伝わっていますが、その由来には諸説あるとされています。まず、水は自ら流れることで、周囲に働きかけます。誰かに言われるまで待つのではなく、自分から一步を踏み出す。その小さな行動が、周囲を動かすきっかけになることがあります。自分から挨拶をする。困っている人に声をかける。新しいことに挑戦する。学校生活においても、そんな一人一人の主体的な行動が、よりよい集団をつくっていくのではないのでしょうか? また、水は岩にぶつかっても、そこで流れが止まることなく、道を探しながら進んでいきます。私たちも、いつも思い通りにすすむとは限りません。失敗したり、壁にぶつかったりすることもあります。そんなときこそ、立ち止まって考え、学び、別の道を探ることが大切です。特に心に留めておきたいのは、困難を成長の糧にするという考え方です。私たち自身も、失敗や挫折を経験すると落ち込むことがあります。しかし、振り返ってみると、苦しい経験を通して気づいたことからこそ学べたことが少なくありません。困難そのものが人を成長させるのではなく、その経験をどのように向き合い、何を学び、次の一步につなげるのかが、大切だと思います。子どもたちにも、失敗を恐れて挑戦し、もう一度挑戦することを大切にしてほしいと願っています。

さらに、水は様々なものを受け入れながら流れていきます。人と関わる中では、自分とは異なる考えや価値観に出会うことがあります。そんなときに、否定するのではなく、まずは相手の考えに耳を傾けてみる。自分とは違うものを知ろうとする姿勢が、新たな発見や相互理解につながります。一人一人の違いを認め、互いを尊重することは、子供たちにとっても、教職員にとっても、大切にしたい姿勢です。そして、水は雨にも雪、氷へと姿を変えます。環境に応じて形を変えながらも、本質は変わりません。私たちも、時代や環境、立場の変化に応じて、柔軟に対応していく必要があります。しかし、どのような状況にあっても、自分が大切にしている価値観や信念を見失わないことが大切です。変化を受け止める柔軟さと、自分の軸をもつ強さ。その両方を大切にしていきたいものです。学校は、子供たちが一人一人自分らしく成長し、互いに学び合いながら、未来へと歩んでいく場所です。教職員も子供たちの思いや変化を受け止め、ともに学び、困難なときには知恵を出し合いながら、歩をすすめていきたいと思っています。

流れる水のように、変化を恐れず、互いを受け入れ、困難から学ぶ。そして、しなやかでありながら、自分の軸を失わずに前へ進む。この生き方を心に留め、子供たちと一緒に成長していきたいと思っています。

<教育目標>

- 進んで学習する子
- 思いやりのある子
- 明るく元気な子

< 11月の月目標 >

- 生活指導 人によべたら「はい」と返事をしよう
- 保健目標 歯と歯肉の健康に気を付けよう
- 給食目標 生活リズムを整えて、朝ごはんを食べて登校しよう